

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 58

Helen Merrill【ヘレン・メルル】

～大の親日家でもある名女性ジャズ・ヴォーカリスト～



Photo : Helen Merrill "Helen Merrill" (Giants of Jazz)

Profile

1930年7月21日、米国ニューヨーク州ニューヨーク生まれ。本名は Jelena Ana Milčetić (イェレナ・アナ・ミルチェティッチ)。両親はクロアチア(旧ユーゴスラヴィア)人移民。母親から歌を学び、14歳の頃からニューヨーク州ブロンクスのジャズクラブで歌うようになり、チャーリー・パーカー、マイルス・デイビス、バド・パウエル、J.J. ジョンソン等の前で歌ったり、共演したりする機会を得る。デビュー当時はヘレン・ミルケティックと名乗って歌っていたが、ヘレン・メルルに改名。46年から47年にかけてレジー・チャイルズ・オーケストラに参加。48年にクラリネット奏者のアーロン・サク스와結婚(56年に離婚)。54年に初リーダー・アルバム『ヘレン・メルル・ウィズ・クリフォード・ブラウン』をレコーディング。同アルバムに収録の「ユード・ビー・ソー・ナイス・トゥ・カム・ホーム・トゥ」は日本でも大ヒットを記録し、TVコマーシャルでも度々使用されるなど代表曲となる。56年のアルバム『ドリーム・オブ・ユー』でギル・エヴァンスと共演。50年代後期はヨーロッパでの活動が増え、イタリア録音のアルバム『ローマのナイト・クラブで』ではニニ・ロツと共演。60年11月に初の日本公演を行う。63年に日本で山本邦山等と共演。66年頃、UPI 通信社アジア総局長ダナルド・ブライドンと結婚し、日本に移住。渡辺貞夫、佐藤允彦等と共演。72年にアメリカに帰国し、一時音楽活動を停止するが、76年にはジョン・ルイスとの共演盤『ジャンゴ』を発表し、音楽活動を再開。その後、数多くの日本公演を行い、定期的に来日していたが、2017年4月に引退宣言し、最後の日本公演を行った。そのハスキーな歌声は「ニューヨークのため息」と称される。現在89歳。